

IMFの世界経済見通し

ポイント① 経済成長率見通しの下方修正

4月9日に発表されたIMF(国際通貨基金)の世界経済見通しによれば、2019年の世界経済成長率は3.3%と1月時点の見通しから下方修正されました。国・地域別には、中国以外の国・地域の成長率が全般的に下方修正されました。一方、2020年の世界経済成長率は3.6%とやや持ち直すと予想しています。

ポイント② 世界貿易の減速

世界経済成長率の下方修正の一つの背景として、世界貿易の鈍化が指摘されています。図2が示すように、世界貿易量の成長率は2015、16年の減速後、2017年に加速しました。しかし、2018年には再び減速し、今回の見通しでは2019年の見通しが下方修正され、さらなる減速が見込まれています。

米国などの保護主義的な通商・経済政策が、世界貿易減速の一因とされています。その点で、IMFは米中貿易・経済摩擦問題の解決を求めています。

ポイント③ 米中合意期待と政策対応の効果

米中貿易・経済交渉は、中国の産業保護政策などに関して両国の意見の隔たりがあり、当初米国が設定していた3月初までの期限が延長されています。しかし、貿易面での合意には近づいているようです。

景気減速の兆しに対して米国のFRB(米連邦準備制度理事会)の金融政策がハト派に傾き、中国では金融・財政両面からの景気下支え策が打たれています。米中合意の期待や、両国の経済政策の転換などから、各国の企業、家計の景況感が回復し、IMF見通しのように2020年に向けて貿易量や経済成長率が持ち直すかどうか注目されます。

図1：国・地域別経済成長率見通し

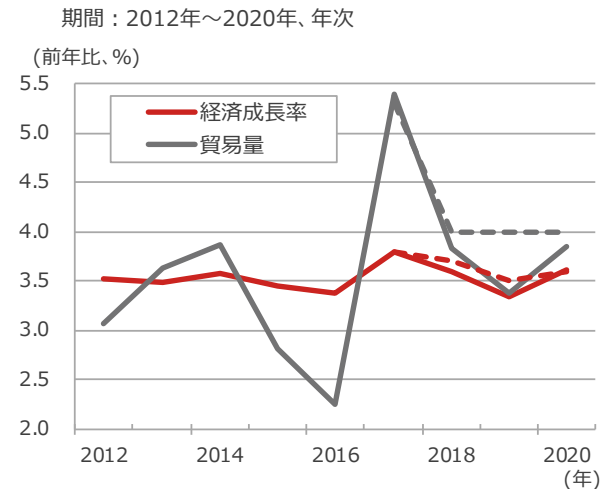
	前年比、%		
	2018	2019	2020
世界	3.6	3.3 (-0.2)	3.6 (0.0)
先進国	2.2	1.8 (-0.2)	1.7 (0.0)
米国	2.9	2.3 (-0.2)	1.9 (0.1)
ユーロ圏	1.8	1.3 (-0.3)	1.5 (-0.2)
日本	0.8	1.0 (-0.1)	0.5 (0.0)
新興・発展途上国	4.5	4.4 (-0.1)	4.8 (-0.1)
中国	6.6	6.3 (0.1)	6.1 (-0.1)
インド	7.1	7.3 (-0.2)	7.5 (-0.2)

(注) 2019年以降はIMFによる見通し

(注) ()内は1月時点見通しからの修正幅

(出所) IMFデータより野村アセットマネジメント作成

図2：世界の経済成長率と貿易量



(注) 2019年以降はIMFによる見通し

(注) 点線は1月時点の推計及び見通し

(出所) IMFデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

4月17日 中国 1-3月期GDP
4月26日 米国 1-3月期GDP
4月30日 ユーロ圏 1-3月期GDP